

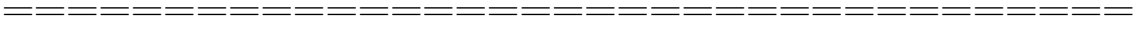


電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
 ニュースレター (2020 年度 No.2)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆FIT2020 (第 19 回情報科学フォーラム) 開催のご報告
- ◆HCG シンポジウム 2020 開催のご案内
- ◆2021 年総合大会投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (HPB 研究会)
- ◆研究会活動紹介 (LARC 研究会)

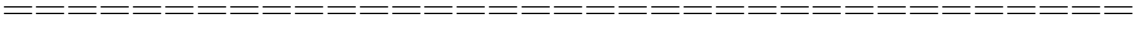


FIT2020 (第 19 回情報科学技術フォーラム) 開催のご報告

企画幹事
 瀬古俊一 (NTT)

第 19 回情報科学技術フォーラム FIT2020 が、9 月 1 日(火)から 3 日(木)まで、オンラインにおいて開催されました。
 本フォーラムは、IPJS 全国大会と ISS ソサイエティ大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現することで、2002 年から毎年継続して開催しております。

今年度は初のオンライン開催となりましたが、昨年度に新設されて好評であった、各分野におけるトップレベルの国際会議および学術雑誌で最近数年以内に採録された論文の著者に、その内容を紹介して頂く特別なセッションである「トップコンファレンスセッション」が 8 セッション 42 件に増加して実施されるなど、例年に劣らない盛況ぶりとなりました。
 情報技術分野における顕著な業績に対して贈られる FIT2020 船井業績賞を受賞された西田 友是氏(広島修道大学教授(東京大学名誉教授) / プロメテック CG リサーチ所長)の受賞記念講演も行われました。
 一般発表のセッション毎に座長の裁量で優秀な発表を 1 件その場で選び贈呈する FIT 奨励賞の受賞者が 54 名選ばれました。
 次回は、2021 年 8 月 25 日(火)～27 日(木)に東北学院大学の多賀城キャンパスで開催予定となっています。



HCG シンポジウム 2020 開催のご案内

企画幹事
 蔵田武志 (産総研)

HCG シンポジウムは今年度で 18 回目を迎えます。シンポジウムの特徴として、工学分野に加え、ヒューマンコミュニケーションに関係が深い心理学、デザイン学、生理学の分野に精通する関係者も集め、活発な議論の場を提供しております。

新しい時代を切り拓く時代は人間に多様性が求められます。職業、能力、個性、

人種、価値観など、互いに異なる背景であっても認め合い共生することで社会や文化の発展に寄与することができます。また、Digital Twinの時代、新たな生活様式が求められる時代、ますますヒューマンコミュニケーションが重要です。コミュニケーション技術をどのように発展させ、使っていくかを一緒に考えましょう。

今回は、コロナ禍の収束が不確定な状況のため、初のオンラインでの開催となります。ぜひ、積極的にご参加いただき会を盛り上げていただきますと幸いです。

HCG シンポジウム 2020
共生社会をささえるヒューマンコミュニケーション

<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2020/>

会期：2020年12月15日（火）～ 2020年12月17日（木）

企画：

- ・招待講演：
高木 啓伸（日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所）
「アクセシブルなリアルワールドへの挑戦」（仮）
- ・チュートリアル講演：
北崎 允子（武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科 准教授）
「Research through Design がもたらす知」
- ・特集テーマセッション
ソーシャル・インタラクション
食メディア
ロケーション・インフォマティクス
視覚障害者支援と人間拡張
仮想非現実世界を利用した認知の拡張
- ・オンライン懇親会

オンライン開催方法：

- ・招待講演・チュートリアル講演：Zoom ウェビナー（予定）
- ・口頭発表：Zoom
- ・インタラクティブ発表、休憩、懇親会：Remo、Ovice等の空間型オンライン対話サービスの利用を検討中

2021年総合大会投稿のご案内

企画幹事
瀬古俊一（NTT）

電子情報通信学会では、例年、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しています。今回は、ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)を含む4ソサイエティ1グループが一堂に会して、以下の要領で総合大会を開催いたします。異なる分野の研究動向の効率的な調査、参加者との交流等にもご活用ください。皆様のご講演申込み、ご参加を心よりお待ちしております。

会期：2021年3月9日（火）～12日（金）
（※3月2日からの開催予定が変更となりました）

会場：オンライン
（※東京工業大学での開催予定から変更になりました）

主な日程

講演申込・原稿の締切

2020年11月6日（金）～2021年1月6日（水）17:00（厳守）

講演日時のご案内

2021年2月2日（メール配信予定）

Web公開

2021年2月23日より開始（予定）

研究会活動紹介（HPB研究会）

HPB 運営委員長
金杉洋（LocationMind）

センサ技術や通信技術の発展・普及と、スマートフォンなどの人の携行する機器の広範な普及に伴い、人がセンサを持ち歩くことと同時に、いつでも自分や周囲を観測しデータを共有することが可能になってきています。自分が意識せずともスマートフォンが周囲を観測し、情報を共有する社会は、どこか実態の掴みづらい恐ろしい社会を連想させてきた側面があります。しかし、折しも2020年はCOVID19の世界的な感染拡大に伴い、各国で接触確認アプリが開発・リリースされ、人の持つデバイスが自分や周囲の状況を観測し、データを共有することが新たな価値を創出する、もうひとつの側面が注目される機会となりました。人の活動に伴うデータを自らが観測しながら、実世界の事象を情報として広く解析・蓄積することで、実世界の様々な現象やメカニズムを定量的に把握し、社会の諸問題の解決に貢献していくことができます。

ヒューマンプロブ（HPB）研究会では、センサの技術開発、データの観測方法や調査の設計、通信技術、センサデータ分析、分析用の背景データの整備、分析結果の提示方法、提示された情報による人の行動変容、行動変容に伴う社会へのインパクト、サービス開発など、人とデータの関わる研究課題について広く分野横断的に議論・交流を進めています。

HPB研究会は毎年2回（6～8月頃と2月頃）開催しており、2009年7月の初回開催以降、12年目となる今年度までに全国各地で23回の研究会を開催してきました。春期開催では、一泊二日の合宿形式で2日間の研究発表会を実施しており、毎回、招待講演者から最先端な研究を御紹介頂く「招待講演セッション」や、各大学教員の提供する話題を深夜まで議論する「ナイトセッション」をはじめ、新しい発想・視点での萌芽研究発表など、研究発表だけでなく研究者同士の交流を図ることを目的として、全国の温泉地で研究会を開催してきました。また冬期開催は、一般講演発表に加え、学生の卒修論発表を中心とした「学生セッション」や、萌芽研究発表を中心とした集中討議にも力を入れた「議論セッション」を中心に実施しており、各地の大学・企業の研究者・学生からの研究発表を頂いています。また、COVID19渦中の2020年は研究会のオンライン開催も実施し、今後はオンライン・オフラインでのハイブリッドでの開催も検討しています。

HPB研究会は、単純な研究報告会ではなく、研究内容の議論と研究者同士の情報交換や萌芽的研究の相談の場としての役割を担いながら、運営メンバーの自由な発想による研究会が実現できるよう、今後も活動を続けたいと考えています。

皆様の御参加をお待ちしております。

御質問・御相談は、kanji@human-probe.info まで御連絡ください。

=====

研究会活動紹介 (LARC 研究会)

LARC 運営委員長
長嶋祐二 (工学院大)

リアルタイムコミュニケーション研究会 (LARC) は、手話をメインテーマとした言語学的な研究、工学的な研究、聴覚障害者支援などを学際的にコミュニケーションのメカニズム解明のためのコミュニティ形成と意見交換の場を提供することを目的として、2016 年 7 月に発足しました。このコミュニティ形成には、競争的資金獲得のための研究者間の連携の強化という狙いもありました。気が付いてみれば、すでに活動期間が 5 年目となっています。

これまでの活動は、HCG シンポジウムでの企画を含めて 15 回全体の研究会を開催してきました。年に 1 回の温泉での合宿形式の議論では、手話認識、データベース構築などテーマを決め集中的に議論してきました。現在、LARC 内では、手話認識、データベース構築、言語学的側面からの研究と大きな 3 本の柱で活動が進められています。

データベース構築の活動は、ワーキンググループを作って精力的に活動を行っています。2019 年度は、これまでの議論と予備的な収集の成果を踏まえ、8 月上旬から 9 月上旬にかけて東映のツークン研究所のスタジオにおいて大規模なデータ収録を行いました。データは、光学式モーションキャプチャにより高精度な 3 次元動作データ、3 台の 4K カメラによる映像、Kinect 2 による深度データ・赤外線画像を同期して収録を行いました。言語資料提供者は男女各 1 名で、収録単語数は、約 4000 単語/人となりました。さらに、世界で初めて高精度・高精度の画像と 3 次元動作の手話対話データの同期収録も行いました。対話課題も議論の結果、言語系の研究者が用いているキャナリーロウを見て説明する課題も含めて、10 対話の撮影を行いました。

今年度の LARC の活動ですが、コロナ禍の影響により、恒例の温泉合宿による議論ができないまま進行しています。対面での活動ができない中、データベース公開に向けワーキンググループのメンバーにより、手話単語データの整理を分担で行っています。さらに、対話データは 4 対話の整理がこの 10 月で終了したところです。残り、6 対話データの 3 次元化の処理を実施しているところです。対話データを基に、(温泉合宿で)議論することを計画しています。

今後は、国立情報学研究所の学術研究データベース・リポジトリ (NII-IDR) を通して、研究機関への公開へ向け準備をしていきます。早ければ今年度中に公開が可能となります。このデータセットにより、手話をはじめとするマルチモーダルコミュニケーション言語の機能解明へ貢献できればと考えています。

=====

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、詳しくは HCG ホームページ <http://www.hcg-ieice.org/> をご覧ください。



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ

Copyright (c) 2020 IEICE, All Rights Reserved.



☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨 henkou@ieice.org まで
会員番号、氏名をご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ
違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。

(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの
全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、
henkou@ieice.org までご連絡下さい。)

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice

(社) 電子情報通信学会 サービス事業部

TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659